

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23390512

研究課題名(和文)小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of the education supporting program for ambulatory care nurses of child health nursing

研究代表者

及川 郁子(OIKAWA, Ikuko)

聖路加国際大学・看護学部・教授

研究者番号：90185174

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、子どもやその家族に関わる外来看護師の育成支援のために、継続教育の現状と課題について実態を調査し、eラーニングによる6つの学習教材「子どもと家族のそばに行こう」「トリアージを行ってみよう」「予防接種を知ろう」「母子健康手帳を活用しよう」「事故を防止しよう」「外来での倫理的課題を考えよう」を作成した。質問紙調査とグループインタビュー調査により、6つの教材は外来看護師の学習に有用であるとの示唆を得ることができた。これらの結果をもとに、個別学習や集団学習を組み合わせた学習支援ガイドを作成し、外来看護師のキャリアアップに向けた継続教育について検討することが今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the state and a problem of the continuing education and made six learning teaching materials ("Let's snuggle up to a child and the family" "I will perform triage" "Let's understand the vaccination" "Let's utilize a maternal and child health handbook" "Let's prevent an accident in the outpatient department" "Let's think about an ethical problem in the outpatient department") by e-learning for educational support of the ambulatory care nurses concerned with a child and the family. By inventory survey and a group interview, we get a suggestion that six materials were useful for learning of the ambulatory care nurses. Based on these results, it makes the learning support guide who put individual learning and group study together, and it is a future problem to examine continuing education for the career up of the ambulatory care nurses.

研究分野：小児看護学

キーワード：小児看護 外来看護師 育成支援プログラム 継続教育 開発研究 eラーニング学習

1. 研究開始当初の背景

子どもたちの健全な発達、健康の維持・促進には、子どもたちを取り巻く適切で良好な環境が重要である。小児に限らず近年、外来看護の重要性が指摘されている。子どもが通院する外来は、風邪等の一般的な健康問題から慢性疾患・障害のある児、また健康診査や予防接種を受ける児と幅広く、外来看護師は子どもや家族のニーズに応じて、子どもたちの健やかな育ちを保健・医療の側面から支える役割を担っている。しかし、日本においては外来看護師の配置は、1948年に医療法で制定された外来患者30人に看護要員1人と示された基準のままであり、小児外来に勤務する看護職への調査においては、時間的余裕のなさや人員不足のために日常診療の中で十分な看護支援を行えていない状況にある。加えて、看護基礎教育、継続教育ともに小児の外来看護について学ぶ機会は少ない。

外来看護師が子どもや家族の健康支援者の役割を取り、さらに学生の実習指導などを担っていくには、外来における小児看護の専門性を高め、看護者自身に根付かせていくことの必要性があるが、小児看護を实践する外来看護師の育成方法や能力開発の研究はない。

2. 研究の目的

本研究は、外来看護師が子どもや家族のニーズを理解し、健康支援者となるために必要な能力を向上させるための育成支援プログラムを開発し、小児看護を实践する外来看護師の継続教育のあり方について検討することを目的とする。具体的には、

(1) 大学病院や地域医療支援病院、診療所などに勤務する外来看護師に期待される役割、そのために必要な能力、獲得方法の現状と獲得レベルについて実態調査分析を行う。

(2) 調査結果と文献等から、育成支援プログラム(教材)を作成する。

(3) 作成した教材の活用を通して、医療機関・教育機関の支援体制のあり方や整備について検討する。

3. 研究の方法

(1) 外来看護師および外来看護管理者を対象とした実態調査：

フォーカスグループインタビュー調査：外来看護管理者を対象として関東地区(5名)と中部地区(5名)の2か所において調査を実施した。また、第21回日本外来小児科学会ワークショップ参加者32名からのヒアリング調査を実施した。インタビュー内容は、外来受診する子どもや家族の状況、看護や保健医療ニーズ、外来看護師に必要な能力や獲得方法、現任教育と教育体制などである。

質問紙調査：全国の大学病院、地域医療支援病院にハガキを送付し、了解の得られた大学病院53施設、地域医療支援病院68施設に質問紙を送付した。

質問内容はグループインタビュー調査と文献等をもとに作成した。外来看護管理者には、病院の規模や外来患者数・診療科数、外来システムや体制、外来看護師の配置状況、外来看護師のための教育内容・求める能力、外来における専門性やキャリアなどである。外来看護師には、看護師経験年数、受けている継続教育の状況や認識、先行研究で明らかにした外来看護実践内容に関する教育の機会と必要性などである。

(2) 教材作成と評価

教材の作成：育成支援のための教材は、調査等をもとに、外来看護師がいつでもどこでも学習できるeラーニングシステムを取り入れ6本の教材を作成した。教材作成に当たっては、専門家の協力のもと、オンライン学習ソフトmoodleを使用した。ホームページを開設し、登録後に視聴できるようにした。

育成支援プログラム評価：教材の活用なら

びに育成支援方法については、個人による評価と集団による評価を行った。個人評価については、学習参加者を募集し、一定期間視聴の質問紙調査を実施した。集団評価については、数回に渡り参加者を募集し、グループインタビュー法による評価を実施した。

*本研究の実施に当たっては、全過程において研究代表者や当該研究実施機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 外来看護管理者および外来看護師を対象とした調査結果

外来看護管理者の結果：121 施設に調査依頼を行い 77 施設から回答があった。外来看護管理者の看護経験は平均 27.9 年、外来看護経験平均 4.9 年、管理者経験平均 9.1 年であった。

外来看護師のための教育の機会としては、院内研修として安全 94.8%、感染 90.9%、接遇 62.3%、倫理 53.2%が行われており、部署内での勉強会 97.4%、院内看護研究 89.6%、施設外研修 65.8%なども実施されていた。外来配置については、夜勤ができない 60.8%、家族の都合 60.0%、それまでの経験 36.0%、本人の関心 26.7%が考慮されていた。小児の外来看護に求める能力としては 253 件の自由記述があり、病児と家族に対するケア能力、疾患や発達の知識、トリアージ、接遇や苦情対応、診療検査の援助技術、連携・調整能力などであった。また、専門性向上については、子どもや家族への教育指導やコミュニケーションスキル、キャリア開発・研修会等の課題が挙げられた。

外来看護師の結果：121 施設 589 名に配布し 303 名から回収があり、281 名の有効回答を分析した。所属は、大学病院 50%、一般病院 42%であり、所属診療科は、小児科のみ 44%、小児科と他科 40%であった。

子どもの外来看護を学ぶ方法としては、講

義 46%や事例検討会 21%を希望しており、書籍・専門雑誌や VTR 教材 10%、eラーニング学習 6%、学会参加 4%の順であった。また、学習の阻害要因として、時間外での実施時間 55%や時間調整 20%が挙げられた。外来で必要な教育内容としては、来院時の理由確認や判断（トリアージ）のための疾病や救急に関する知識や予防接種に関する知識が 90%を超えていた。外来勤務となって新たに講義等を受けたものは 13%であり、多くが OJT や独学により知識を得ていた。

(2) 教材作成

文献検討や調査結果から、外来看護管理者は、外来看護師に教育の機会を与え能力向上を目指しているものの、家庭の事情などで外来勤務を希望している看護師が多いために教育の機会をどのように提供していくかが課題となっていることが明らかとなった。また、外来看護師は、目まぐるしく変わる予防接種の最新知識や、外来受付等での子どもの病状の判断能力を高める必要性を感じていたが、勤務時間外での学習時間の確保が難しい状況であった。

以上のような調査結果を踏まえ、外来看護師が、自由に自分の時間を使って学ぶことができる eラーニングの学習方法を取り入れた支援プログラムとして、「子どもと家族のそばに行こう」「トリアージを行ってみよう」「予防接種を知ろう」「母子健康手帳を活用しよう」「外来での事故を防止しよう」「外来での倫理的課題を考えよう」の 6 本の教材を作成した。

これらの教材は、外来に配属され子どもに関ることが初めてである、関わることに苦手意識がある、子どものケアに自信がない、子どもの看護について再確認したいなど、一般総合病院や大学病院、診療所等の外来に勤務する看護師が小児看護に関する知識や技術を主体的に学ぶことを目的に作成した。

また、「外来での倫理的課題を考えよう」については、内容の性質上、個人の学習だけではなく、集団での討議を含めることでより効果的であると考え、知識獲得の個人学習をeラーニングで行い、その後の集団討議の2部構成として作成した。

eラーニングは学習ソフト moodle を用いて、できるだけ簡単操作で行えるようにした。6本の教材は、内容や学習者の必要性により学習時間は異なるものの、それぞれのコンテンツは、10分～20分程度に収め、どの項目、内容からでも視聴できるようにした。動画や写真などを挿入してイメージしやすく工夫するとともに、知識確認ができるクイズや課題などを送信できるようにした。

eラーニングを学ぶには、IDとパスワードが必要であり、評価修正後、大学病院や地域一般病院、診療所等に広報を行って、随時視聴できるようにした。

(3) プログラム評価

個人評価：「子どもと家族のそばに行こう」「トリアージを行ってみよう」「予防接種を知ろう」については、eラーニング学習者を応募し質問紙調査を実施した。70名の応募があり、8週間の視聴期間における実利用者は47名、ログイン回数は290回であった。質問紙調査への返信は26名であり、3本の教材を視聴しての意見は全体的に肯定的であり、外来看護の学習に有効であるとの結果を得た。しかし、応募はしたが利用しなかった、知識確認テストまで進まず途中で止めた参加者もあり、学習の推進が課題であった。

集団によるグループインタビュー法：3回のグループインタビュー法を実施した。1回目は、「子どもと家族のそばに行こう」「トリアージを行ってみよう」「予防接種を知ろう」について外来看護師9名と外来看護管理者9名による評価である。それぞれのグループごとにeラーニング教材をその場で視聴し(e

ラーニングの操作なども実感してもらうため)、その後自由な意見交換を実施した。外来看護師からは、『基本的知識が網羅されている』『動画あって見やすい、イメージが付きやすい』『事例問題などがあり知識の理解の振り返りになる』などの意見が、外来看護管理者からは、『学びたいときに学べ、使い方のガイドがあるとよい』『外来の新人看護師に役立つ、定期的に行うことで効果がある』などの意見があった。

2回目は、「外来での倫理的課題を考えよう」について、外来看護師13名の参加者で行った。事前に教材を視聴してきてもらい、2つのグループに分けて各外来での倫理的課題に関して討議を行った。動画と合わせて実際の状況を振り返ることができたこと、これが倫理的課題であると気づかないで過ごしてしまう状況を確認することができるなどの意見があり、事前学習と併用した教育効果が期待できるものであった。

3回目は、「母子健康手帳を活用しよう」「外来での事故を防止しよう」「外来での倫理的課題を考えよう」について、外来看護師5名、外来看護に詳しい小児看護学教員5名によるインタビュー調査を実施した。事前に3本の教材を視聴してもらい、意見交換を行った。「外来での倫理的課題を考えよう」では、『動画ありイメージしやすいものの、文字量が多く、法律用語など難しい導入になっているため工夫が必要である』との意見があった。「母子健康手帳を活用しよう」「外来での事故を防止しよう」は、『比較的短く、わかりやすい内容に構成されている』などの意見があった。

(4) 今後の課題

これまでの研究成果として、eラーニング学習システムを用いた6つの教材を作成し、視聴評価を行った。その結果、個別視聴による学習参加や効果への期待はあるも

の、具体的な実践への結びつきや外来でのキャリアアップにどのようにつけていくかは明らかにすることができなかった。また、「外来での倫理的課題を考えよう」のように個別学習と集団学習を組み合わせた場合、どのような支援方法がより有効な学習となるか十分に検討できなかった。

今後は、これまで作成した6つの教材を活用・発展させ、eラーニングによる個別学習のほか、集団による学習支援方法を組み合わせ、eラーニングで得た知識や技術を実践に効果的に活用するための学習方略を検討することが課題として挙げられた。そのために、小児看護における外来看護師の実践能力を高めるための学習支援ガイドなどを作成し、外来看護師のキャリアアップに向けた継続教育について検討する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

及川郁子、川口千鶴、山本美佐子、朝野春美、石井由美、吉川佳孝、佐々木祥子、橋爪永子、古屋千晶、築瀬順子、eラーニング学習教材による外来看護師への教育支援の検討～「子どもと家族の側に行こう」「トリアージを行ってみよう」「予防接種を知ろう」を作成して～、日本小児看護学会第25回学術集会、2015年7月、東京ベイ幕張ホール(千葉県千葉市)

古屋千晶、及川郁子、川口千鶴、長谷川桂子、山本美佐子、橋爪永子、朝野春美、築瀬順子、吉川佳孝、石井由美、外来看護師の小児看護に関する継続教育の認識、日本小児看護学会第23回学術集会、2013年7月、高知文化プラザ(高知県高知市)

築瀬順子、朝野春美、及川郁子、川口千鶴、

山本美佐子、長谷川桂子、橋爪永子、吉川佳孝、古屋千晶、石井由美、外来看護管理者の小児科外来看護師への教育支援の認識と現状、日本小児看護学会第23回学術集会、2013年7月、高知文化プラザ(高知県高知市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://slcn.jpn.org/login/index.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

及川 郁子(OIKAWA, Ikuko)

聖路加国際大学・看護学部・教授

研究者番号: 90185174

(2) 研究分担者

川口 千鶴(KAWAGUCHI, Chizuru)

順天堂大学・保健看護学部・教授

研究者番号: 30119375

山本 美佐子(YAMAMOTO, Misako)

四日市看護医療大学・看護学部・教授

研究者番号: 10258882

(3) 連携研究者

長谷川 桂子(HASEGAWA, Keiko)

岐阜県立看護大学・看護学部・准教授

(～2014年3月退職)

研究者番号: 80326107

(4) 研究協力者

朝野 春美(ASANO, Harumi)

石井 由美(ISHII, Yumi)

吉川 佳孝(KITUKAWA, Yoshitaka)

佐々木 祥子(SASAKI, Shoko)

橋爪 永子(HASHIZUME, Eiko)

古屋 千晶(FURUYA, Chiaki)

築瀬 順子(YANASE, Junko)